

令和4年度 学校安全総合支援事業（学校安全体制の構築）の最終報告

学校名 （ 大分県立由布支援学校 ）

1 学校の情報

(1) 学校規模

小学部・・・30名 中学部・・・20名 高等部・・・17名 合計 67名
教職員・・・65名

(2) 分掌の位置づけ

生徒指導部所属 防災教育コーディネーター1名
防災教育担当教員5名（保健部も含む）

(3) 地域環境






由布支援学校は由布岳、鶴見岳を臨む山あいにある。学校に敷地の近隣には大分川、小挾間川が流れている。地域の避難所及び平成27年9月には由布市福祉避難所として協定を締結している。校区には土砂災害警戒区域や浸水想定区域が存在し、実際に平成28年4月の熊本地震や、令和2年7月の九州北部水害で被災している。土砂災害を主とした防災教育の在り方や、児童生徒の登下校時に発生した時の対応、学校待機となった場合の備え等について検証するとともに、教職員や保護者、地域の防災意識を高める実践的研究を行うのに適する学校である。





2 取組のポイント

災害に直面する可能性が高い地域であるため、学校の危機管理体制を整えておく必要がある。そして、児童生徒が家庭や地域で過ごしている時に発災した場合でも、主体的に避難行動ができるように、保護者とともに防災・減災意識を高める必要がある。また、本校は地域の避難所・福祉避難所に指定されており、発災時に備えて、避難所としての運営についても検証が必要である。そのため、防災教育コーディネーターを中心として、以下の取組を行う。




- ①防災教育として、校内外の点検や居住地避難所の確認、防災の視点を取り入れた授業実践や訓練などの行事を行い、実施記録を集める。児童生徒が自分の身を守ることができるようになることを目指して取り組む。
- ②保護者に防災の視点を取り入れた授業の参観、家庭で必要となる備蓄、防災にかかる意識の高揚に寄与するような講話や防災だよりの発行などで協力を依頼する。児童生徒とともに学ぶことを通じて保護者の防災意識を高めたい。特に本校児童生徒の約3割が生活する知的障がい児施設や児童養護施設と、より強固な連携をしていく。
- ③教職員の災害に対する危機管理意識の向上や校内体制の整備を図るために、防災研修を実施する。防災教育の考え方や進め方について教職員の知識・指導力を高め、訓練を通じて実践的な対応力を高める。
- ④地域の関係機関や地域住民との協議を行い、土砂災害等による災害発生時における連携の在り方や体制づくりをすすめる。

3 具体的な取組

実施時期	実施事項
4月5日	第1回防災教育モデル実践事業に係る運営委員会
5月18日	避難訓練（火災）   防災職員研修（防災モデル校の取組）
5月25日	木埋学園避難訓練視察（20時～防災担当3名参加）
6月16日	第2回防災教育モデル実践事業に係る運営委員会
7月5日	防災教育担当職員防災研修 
7月19日	第1回防災モデル実践事業実践委員会
7月27日	職員研修①「防災教育の本質に迫る」 ～水害・土砂災害について考える～ 講師 防災・環境教育ラボ 上山 容江 氏  
8月 2～4日	視察研修①（広島県フィールドワーク 広島県庁砂防課 安佐南区緑井 八木地区 広島市立梅林小学校 宮島自然砂防） 学校安全・安心支援課 指導主事 由布支援学校防災担当 5名 計6名
8月 22～23日	視察研修②（芦屋市立精道小学校 兵庫県立芦屋高等学校 神戸市立灘 さくら支援学校 人と防災未来センター） 由布支援学校防災担当 1名
9月9日	由布市福祉課 防災危機管理課との福祉避難所の見直し検討
9月16日	第3回防災教育モデル実践事業に係る運営委員会
10月24日	第4回防災教育モデル実践事業に係る運営委員会
10月25日	山家学園避難訓練視察（19時～防災担当3名参加）
10月26日	避難訓練（地震）  

<p>防災体験（大分大学減災・復興デザイン教育研究センター協力）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>遠隔ロボット（temi）</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ゆらすんだー</p> </div> </div> <p>職員研修②「災害からの教訓と防災教育の重要性」 ～命を守る防災教育～ 講師 大分大学減災・復興デザイン教育研究センター 防災コーディネーター 板井 幸則 氏</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	
11月15日	第5回防災教育モデル実践事業に係る運営委員会
11月22日	第2回防災モデル実践事業実践委員会
1月19日	山家学園避難訓練視察（15時～防災担当2名参加）
1月25日	公開研究発表大会 天候不良のため中止（紙面開催）
2月14日	第3回防災モデル実践事業実践委員会

●授業

学部	教科等	題材名	
小学部	自立活動	「リラクゼーション」	
	学級活動	「災害が起きた時、どうすればいいのかな」	
	学級活動	「地震が起きたら、どうなるの」	

中学部	総学	「防災学習 公衆電話の使い方」	
	学級活動	「学部集会」	
	保健体育科	「着衣泳を体験しよう」	
高等部	作業学習	「環境サービス（備蓄飲料の管理）」	
	家庭科	「日常にいかせる小物作り」 防災備蓄リュックのネームタグ	

4 取組における成果と課題

(1) 成果

- 児童生徒全体に自然災害がいつきてもおかしくない状況を授業を通して伝えることができた。
- 非常時に自分にできることや、友だち、職員の支援を素直に受けることの大切さを教えることができた。
- 防災教育や防災だよりの発行により、家庭内でも保護者と児童生徒で防災について考えるようになってきた。
- 防災教育を通して多くの人と関わることで、人への関心に繋がり、見てもらう、頑張ろうという気持ちに繋がっている。また、人と関わることへの苦手意識が軽減されてきた。
- 防災を通して多くの方々とつながることができた。それぞれの立場や大変さに気付いたり、知ったりすることができた。

(2) 課題

- 火災、地震避難訓練の実施方法（実際に起こりそうな想定を考える）
- 訓練における事後の反省（教職員間の情報共有）
- ヘルメットなど命を守る防災グッズの不足

5 今後の取組の見通し

- 防災組織の動き等を職員へ周知徹底
- 危機管理マニュアルの見直し
- 学校周辺の安全確認及び行政との連携をさらに密に行う
- 保護者、学園との引き渡しの方法を確認
- 自分の命を守る行動や友だちに声をかけて一緒に避難ができるような児童生徒を育成するための防災教育の工夫と強化
- 非常時に対応できるように抜き打ち訓練の実施